

がんに負けない心と体をつくるために

あきらめない、その気力が免疫力につながる！

「がんになったから」そう語るのは、
難病といわれる膵臓がんを乗り越えた薬局の先生。
延命ばかりを恐れ、心が沈んでしまつては、体もついてきません。
大切なのは“**気力**”と“**体を整える生活習慣**”です。
当店では、生活習慣の見直しや自然な力を使って、
がんを乗り越えた方が何人もおられます。

がんになった
からといって
あきらめない
でください



当店でのお役立ち商品



ポイントはこの4つ

- ①食事・運動・睡眠の基本を整える
- ②牡蠣エキス・クロレラ・アミノ酸製剤などで
戦う血（免疫細胞）を養う
- ③クロレラエキス 503 で白血球の力を強化
- ④血流改善と漢方の活用で、免疫のめぐりを助ける

「がんに立ち向かう体は、自分で育てていける。」

先生の体験談が、きっと希望になります。気になる方は、ぜひお気軽にご相談ください。

現在のがん治療法は、日本ではまず標準治療を行います。

その後、免疫療法など。（※自分の免疫力を高めるものではない）

手術、放射線、抗がん剤です。抗がん剤による骨髄抑制や肝障害、腎障害、間質性肺炎、神経障害、心毒性による心機能障害、甲状腺機能障害など、多くの副作用に対しての治療法がなく、抗がん剤を休み、自然回復を待つだけです。痛みやしびれ等の軽い副作用に対しては対症療法として痛み止めや麻薬を使っています。免疫チェックポイント阻害剤（オプジーボ等）を始め、放射線療法なども、最終的には、その人の**免疫力次第で生きるか死ぬかが決まってしまう**！

1番大切な事は、がんの転移を防ぎ、進行を遅らせることである。

免疫力を上げて、転移や血栓症を予防し、死に直結する病気（心不全、肺炎、脳疾患）の発生を抑えることが大切です。

大切

**致命的でなければ、あえてがんの絶滅を考える必要は無い
抗がん剤を使用しても、免疫力を上げる食品を併用することが大切である**

免疫とは、正常な白血球の数とともに、酵素活性が強いのか、弱いかにあり、酵素活性を高めるのは、アミノ酸とミネラルの補給が重要である。

また、抗がん剤に共通して、間質性肺炎が起こりやすい。

間質性肺炎は、抗がん剤以外の新薬の副作用としても多く見られ、肝臓、腎臓など、他の臓器の機能の低下の原因として考えられます。

酵素活性の高い細胞を生成するには、体液の浄化が大切である。

しかし、体液の老廃物量が多くなれば、酵素の生成も代謝も悪くなります。

人間の体は、酸素や栄養分の供給と老廃物の排泄が必須条件です。